

一級河川高崎川 住宅市街地基盤整備事業 再評価について

平成19年2月
千葉県印旛地域整備センター

なぜ再評価を行うのか

社会的背景

長引く景気低迷
公共事業予算の減少
公共事業への関心の高まり

- ・時代のニーズに合うか？
- ・環境への影響は？
- ・他の方法はないのか？
などの疑問に答える。

公共事業の効率性
公共事業の実施過程の透明性
一層の向上を図るため再評価を実施
千葉県県土整備部所管
国庫補助事業再評価実施要領



だれが評価を行うのか

河川事業・ダム事業で、河川整備計画策定のための
流域懇談会が設立しているかどうか？

ある

ない

流域懇談会

評価監視委員会

再評価はいつ実施するのか

10年経過

5年毎

5年毎

H9

住宅市街地基盤整備事業

事業開始

今回

次回

完了予定

[対象]

事業採択後5年経過して未着工
事業採択後10年経過して継続中
再評価実施後5年経過した事業

評価はどのようなことに着目して行うのか

- 1 事業の必要性 事業の進捗状況
社会経済情勢等
事業の投資効果
- 2 事業進捗の見込み
- 3 コスト縮減や代替案立案等の可能性

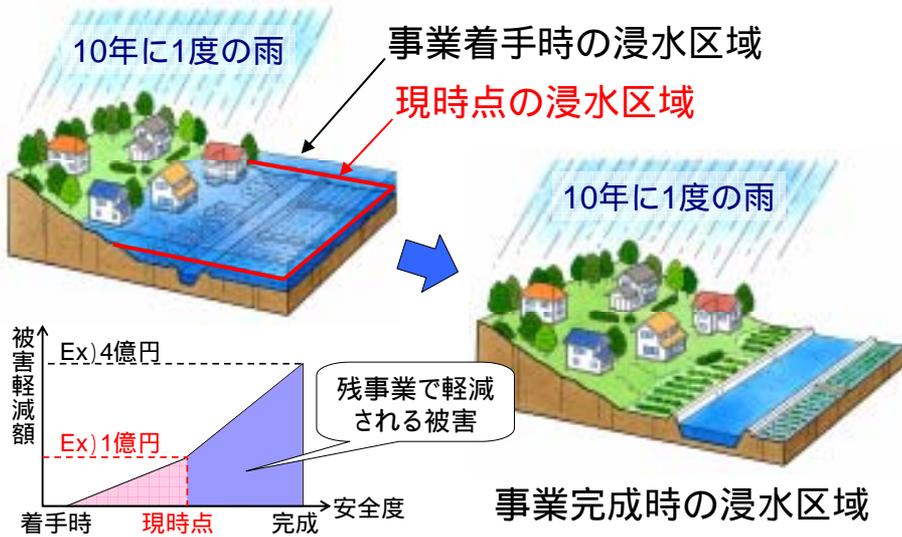


投資効果の確認はどのように行うのか



河川整備に係る費用 (Cost) と、得られる便益 (Benefit) の比率で評価。B/C 1.0で事業の経済的妥当性を確認する。

事業再評価のルール(評価指標)



進捗状況 (事業箇所)

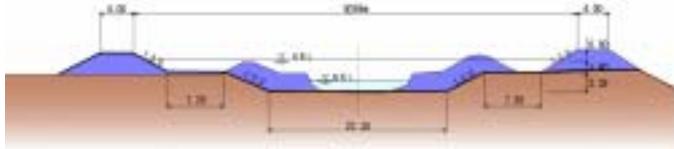


進捗状況(事業内容)

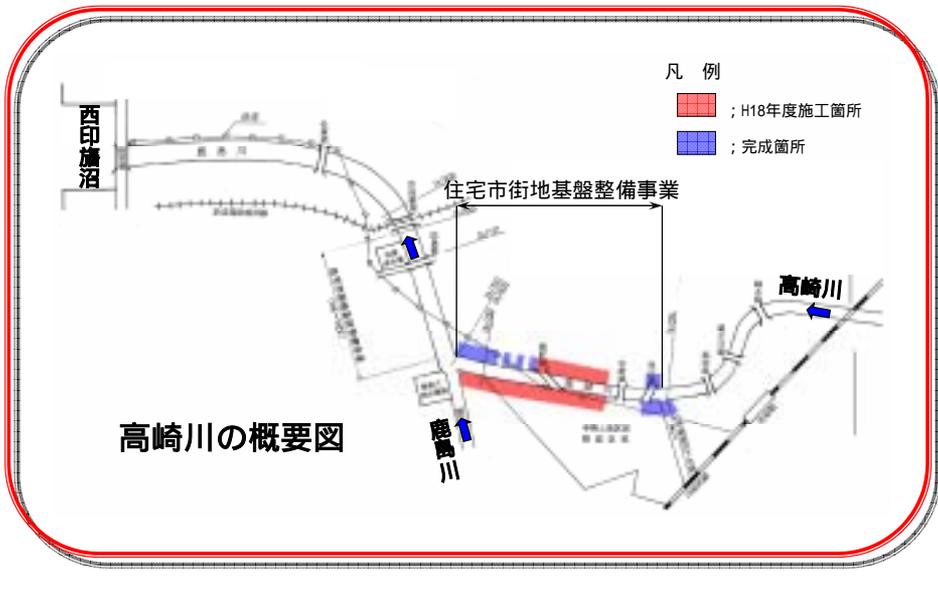


【事業内容】

- ・河道拡幅
- ・掘削
- ・築堤
- ・目標流量120m³/s
(W=1/10)
- ・現況流下能力
約40m³/s



進捗状況(進捗の見通し)



進捗状況

住宅市街地盤整備事業(H18年度末)

	全体計画 (億円)	投資事業費 (億円)	進捗率(%)
全体	25.04	22.05	88.1
工事	17.63	14.92	84.6
用地	7.41	7.13	96.2

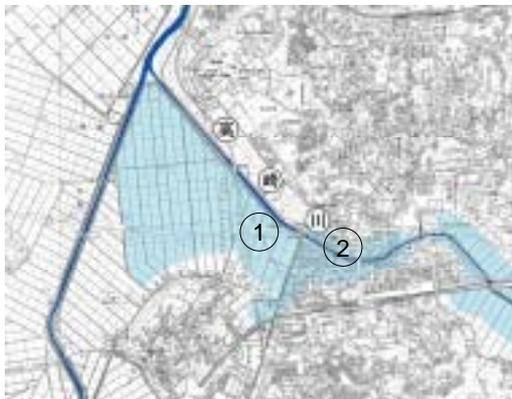
社会経済情勢等(被災状況)

鹿島川・高崎川の近年の浸水被害

洪水名	降雨要因	浸水面積 (ha)	浸水家屋(戸)		備考
			床上浸水	床下浸水	
H3.9.8	台風15号	146	9	82	内水
H3.9.19	台風18号	33			内水
H5.8.27	台風11号	5			内水
H8.9.22	台風17号	148	54	45	内水, 溢水
H13.10.10	集中豪雨	130	36	50	内水
H16.10.9	台風22号	62		4	内水, 溢水

浸水被害の頻発する佐倉市街地の
治水安全度向上を目的とする

社会経済情勢等(被災状況)



平成8年9月出水 浸水実績図
床上浸水54棟 / 床下浸水 45棟 / 浸水面積148ha



社会経済情勢等(宅地開発)

寺崎都市区画整理事業内の大規模小売店



区画整理事業と連携し、
良好な宅地を開発

投資効果(浸水被害想定区域)



10年に1回発生する時間雨量50mmの洪水において、図に示す区域で浸水が想定される。

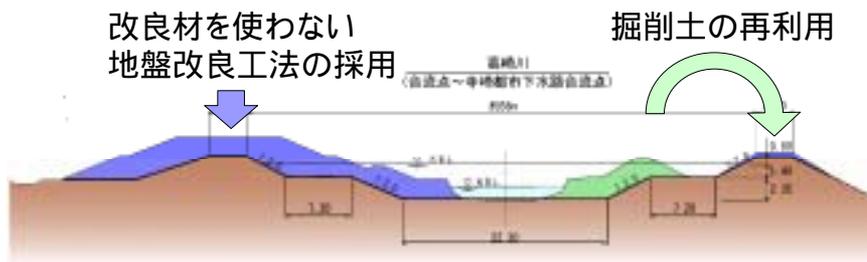
投資効果(費用対効果)

C費用	建設費【現在価値化】	91.10億円
	維持管理費【現在価値化】	11.63億円
	費用合計	102.73億円
B効果	便益【現在価値化】	157.21億円
	残存価値【現在価値化】	4.53億円
	効果合計	161.74億円
	費用便益比(CBR) B/C	1.57

西印旛沼合流点～JR総武本線までの全事業

コスト縮減

- ・掘削土の再利用
- ・改良材を使わない地盤改良工法の採用
- ・橋梁の統廃合による架け替え数の削減(寺崎橋)



事業再評価のまとめ

[事業の進捗状況]

進捗状況88% , H20年完了予定。

[社会経済状況]

事業区間は佐倉市街地を貫流。水害が頻発。

寺崎土地区画整理事業が進行中で大規模小売店も進出。

[コスト縮減案等]

掘削土の再利用。改良材を用いない地盤改良工法の採用
橋梁架け替え数の削減。

[事業の投資効果]

費用対効果 $B/C=1.57 > 1.0$

事業
継続